

令和5年度

タイ王国バンコク都との高校生交流事業

報告書



公益財団法人 福岡県国際交流センター



福岡県 企画・地域振興部国際局国際交流課

令和5年度

タイ王国バンコク都との高校生交流事業

報告書

目次

概要	2
グループメンバー	3
事前研修(1回目～3回目)	6
前半プログラム 於 バンコク都	9
後半プログラム 於 福岡県	12
参加者報告書	15
募集要項	21
募集チラシ	22

令和5年度 タイ王国バンコク都との高校生交流事業 概要

1 趣旨・目的

海外との交流に意欲的な高校生に、英語でのディスカッションや海外渡航の機会を与えることにより、国際感覚を持ち、将来的に英語でコミュニケーションができる人財を育成する。

2 概要

(1)参加者 福岡県の高校生 10名
バンコク都の高校生 10名

(2)事業内容

福岡県とタイ王国バンコク都を相互に訪問し、SDGsをもとにした高校生に身近な社会課題に関するテーマについて、チームごとに英語でグループディスカッションを行い、自分たちが取り組めることや課題解決策について発表する。

事前研修 1回目

令和5年11月4日(土)

福岡県とタイ王国バンコク都の概要、SDGs・ワンヘルスに関する講義とグループワーク

事前研修 2回目

令和5年11月25日(土)

バンコク都の高校生との顔合わせ(Zoom)、モデレーターによるSDGsの講義、チームごとの課題設定

事前研修 3回目

令和5年12月2日(土)

Zoomにて、チームごとに課題の原因追及、SDGsと課題の関連付け

前半プログラム 於 バンコク都

令和5年12月23日(土)~29日(金)

SDGsについての講義やフィールドワークを通じて英語でディスカッション、中間発表、バンコク都内・アユタヤ県視察ほか

後半プログラム 於 福岡県

令和6年3月21日(木)~26日(火)

ごみ処理施設視察、ディスカッションの成果発表、福岡県内視察、日本文化体験ほか

(3)参加資格

- 福岡県内の高等学校若しくはそれに準ずる学校に在籍している18歳以下の者。
- ワンヘルスやSDGsに強い関心を持ち、協調性に富み、団体生活に適応でき、心身ともに健康でタイの文化や生活、国際交流に関心のある者。
- 一定の英文読解力を有し、英語によるコミュニケーションが可能であること。 など

(4)実施主体

福岡県企画・地域振興部国際局地域課
公益財団法人福岡県国際交流センター

※福岡県からの委託により、(公財)福岡県国際交流センターが実施

グループメンバー

グループA

メンバー

氏名	学校
江口 天翔	東福岡高等学校
桑原 理沙	上智福岡高等学校
Sarithip Daeng-em	Matthayompuranawas School
Omer Pathan	Matthayom Naknawaupatham School

ディスカッションテーマ

住民や教育関係者等をターゲットに、ゴミを分別する仕組みをつくり、学校などの教育機関でゴミ管理に関する教育を行う等、住んでいる街がきれいに保たれることを目指す。

関連するSDGsの目標

- 4. 質の高い教育をみんなに
- 12. つくる責任つかう責任
- 17. パートナーシップで目標を達成しよう

グループB

メンバー

氏名	学校
天竺 李胡	福岡中央高等学校
渡邊 友莉香	修猷館高等学校
Phetlada Watcharakate	Matthayomprachaniwet School
Yurawan Singcharoen	Kaenthong Uppatham School

ディスカッションテーマ

タイの学校を取り上げ、ごみ分別に関する認識を高めるための授業や啓発活動、分別を後押しする環境整備等を行うことで、学校におけるごみ分別強化を目指す。

関連するSDGsの目標

- 4. 質の高い教育をみんなに
- 11. 住み続けられるまちづくりを
- 12. つくる責任つかう責任
- 13. 気候変動に具体的な対策を

グループメンバー

グループC

メンバー

氏名	学校
伊藤 光央	上智福岡高等学校
益田 拓実	三潞高等学校
Kantapat Manngam	Matthayombanbangkapi School
Napasorn Vilas	Matthayomprachaniwet School

ディスカッションテーマ

貧困の格差が深刻化するなかで、NGOの役割や機能の重要性を取り上げ、就職支援につながるような冊子やサポートにより、ホームレスの就職率を上げ、ホームレス問題の解決を目指す。

関連するSDGsの目標

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
6. 安全な水とトイレを世界中に
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

グループD

メンバー

氏名	学校
大石 優	久留米高等学校
新家 薫	北九州工業高等専門学校
Harit Jangheerun	Matthayom Naknawaupatham School
Suratsawadee Maleesuk	Matthayom Watsuttharam School

ディスカッションテーマ

タイの学校を取り上げ、ゴミ分別啓発ポスターの掲示などを行うことでプラスチックの使用率を削減し、プラスチックゴミが分別されないことでもたらされる深刻な有毒ガスや温暖化問題等の解決を目指す。

関連するSDGsの目標

12. つくる責任つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
17. パートナースhipで目標を達成しよう

グループE

メンバー

氏名	学校
梶原 穂可	筑陽学園高等学校
福元 日菜	九州産業大学附属九州高等学校
Suchakree Pengphaw	Matthayomprachaniwet School
Ornpreeya Samranjai	Matthayomprachaniwet School

ディスカッションテーマ

学校生活において感じるジェンダー認識の問題を取り上げ、ジェンダー平等について理解を深める取り組みをし、生活を共にする皆が平等に扱われることを目指す。

関連するSDGsの目標

- 4. 質の高い教育をみんなに
- 5. ジェンダー平等を実現しよう
- 10. 人や国の不平等をなくそう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



事前研修 1回目（対面）

バンコク都の高校生との交流を前に、自分たちが暮らす福岡県について振り返るとともに、タイ・バンコク都について知り、SDGsの基礎を学ぶ。

令和5年11月4日(土) 於 (公財)福岡県国際交流センター こくさいひろば

概要

- 1 主催者挨拶（元永 行英 福岡県国際交流センター事務局長）
- 2 プログラム概要説明
- 3 自己紹介
- 4 講義① 福岡県政の概要・ワンヘルスについて
- 5 講義② タイ王国・バンコク都について
- 6 講義③ SDGsについて・アクティビティ「2030 SDGs」
- 7 事務連絡

講義名・講師

- | | | |
|-----------------------------|--------|------------------------|
| ■福岡県政の概要・ワンヘルスについて | 筒井 良太 | 福岡県企画・地域振興部国際局地域課 主任主事 |
| ■タイ王国・バンコク都について | 片山 隆裕 | 西南学院大学国際文化学部 教授 |
| | 富松 寛考 | タイ国政府観光庁 マーケティングマネージャー |
| ■SDGsについて・カードゲーム「2030 SDGs」 | 高木 正太郎 | 一般社団法人福岡SDGs協会 代表理事 |



片山教授、富松氏による講義の様子



高木氏による講義の様子



SDGsカードを使ったグループワークの様子



事前研修 2回目（オンライン）

バンコク都の高校生とオンラインで対面。初めて英語でコミュニケーションを取る。SDGsに関する講義を受け、グループディスカッションを行う。

令和5年11月25日(土) オンライン

概要

福岡県とバンコク都の高校生が初めてオンライン上で顔を合わせ、交流をした。使用言語は英語。進行はモデレーターのタマサート大学SDGs研究支援センター副長のMs. Nuntinee Malanon氏が務め、一人ずつ自己紹介をした後、SDGsに関する講義があった。Zoomのブレイクアウトルーム機能を使ってタイのメンターが各グループに1人ずつ加わり、メンターの補助を受けながら、グループごとにディスカッションを行った。

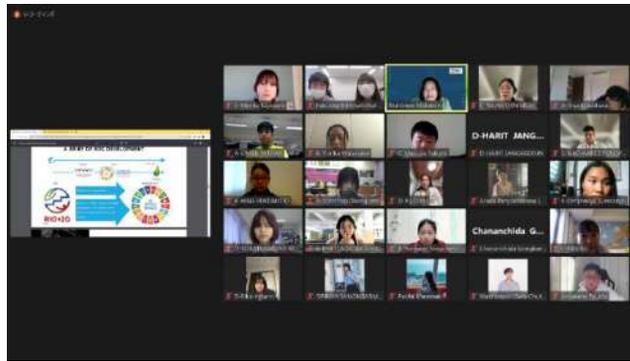
- 1 オープニング
- 2 SDGsに関する講義
- 3 自己紹介
- 4 グループディスカッション①〔共通する課題の発見〕

参加者

モデレーター	タマサート大学SDGs研究支援センター副長 Ms. Nuntinee Malanon氏
メンター	5名(各グループに1人)
福岡県高校生	10名
バンコク都高校生	10名
バンコク都教育局	2名
(公財)福岡県国際交流センター	2名



顔合わせ、自己紹介の様子



SDGsに関する講義の様子



グループディスカッションの様子

事前研修 3回目（オンライン）

第2回事前研修の続きで、グループディスカッションを行う。課題の原因追及をし、考察を深める。グループ毎にテーマを決め、SDGsとの関連性を考える。

令和5年12月2日(土) オンライン

概要

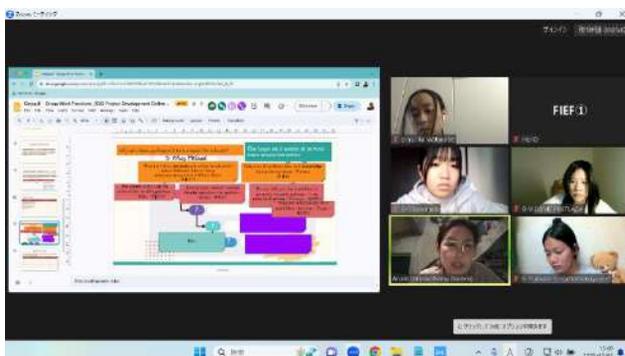
使用言語は英語。進行と各グループのサポートは第2回事前研修と同じモデレーターとメンターが務めた。前回の研修で挙げた課題をもとに、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使ってグループ毎に課題の原因追及を行った。さらに、それぞれの課題がSDGsの17テーマにどのように関連するかをディスカッションし、考察を深めた。

- 1 グループディスカッション②〔課題の原因追及〕
- 2 グループディスカッション③〔SDGsとの関連付け〕
- 3 まとめ

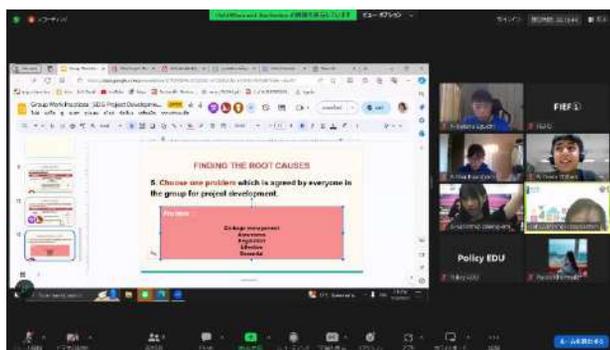
参加者 ※第2回事前研修と同様



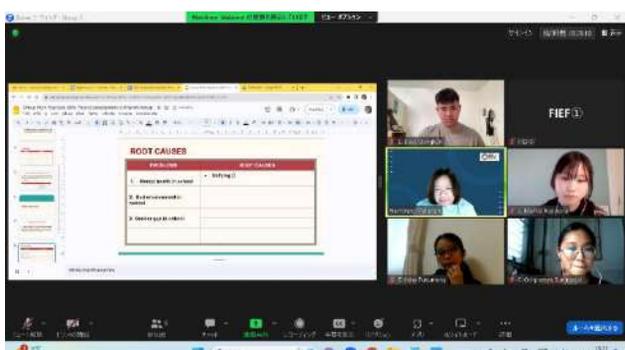
前回研修の振り返りの様子



Google機能を使ったグループワーク 例①



Google機能を使ったグループワーク 例②



Google機能を使ったグループワーク 例③

LINKING THE SDGs

4. Identify SDGs that link to each problem by considering the root causes of that problem.

PROBLEMS	ROOT CAUSES	SDGs
Garbage management	1. Lack of Public Awareness : There are no facility which dispose of garbage.	11 4 (indirect)
	2. Its an overproduction issue beyond necessity.	12
	3. Government : Weak or poorly enforced waste management policies and regulations contribute to improper disposal practices.	16

FINDING THE ROOT CAUSES

5. Choose one problem which is agreed by everyone in the group for project development.

Problem :

Garbage management System

How can we improve garbage management?
Why is garbage management essential?
How can we raise awareness about garbage management?

最終的にまとめた課題 例グループA

前半プログラム 於 タイ王国バンコク都

日程表(5泊7日)

日程	内容	
12/23	土	出発式
		福岡空港国際線着 TG649
		福岡県訪問団バンコク到着
		ホテル到着(バンコクの学生によるお出迎え)
		夕食
12/24	日	ホテル出発
		視察 ①アユタヤエレファントパレス
		視察 ②アユタヤ水上マーケット
		視察 ③ワット・プラシーサンペット
		視察 ④ワット・チャイワッタナラーム
		歓迎会
12/25	月	ホテル出発
		グループディスカッション(終日)
		夕食
12/26	火	ホテル出発
		グループディスカッション&発表準備
		昼食
		中間発表会
		クルージング
		夕食
12/27	水	ホテル出発
		バンコク都議会 表敬訪問
		昼食
		バンコク都 表敬訪問
		視察 ①サオチンチャー
		視察 ②ワットスタット
		フェアウェルパーティー
12/28	木	ホテル出発
		視察 エメラルド寺院(ワットプラケート)
		昼食
		ショッピング
		空港へ移動
12/29	金	福岡県訪問団帰国(TG648)
		福岡到着

前半プログラム 於 タイ王国バンコク都

待ちに待ったバンコク都への渡航。事前研修で顔合わせしていた高校生同士が対面。事前研修でディスカッションした内容をさらに掘り下げ、中間発表に臨んだ。滞在期間中には観光資源の視察など貴重な時間を過ごすことができた。

令和5年12月23日(土)～29日(金)

概要

前半プログラムでは福岡の高校生10名がバンコク都を訪問。バンコクでは、事前研修でディスカッションした内容をもとに対面でディスカッションし、各グループ毎に中間発表をした。また、滞在期間中は、バンコク都知事表敬やバンコク都議会表敬をはじめ、バンコク都やアユタヤ県を視察し、タイの文化や歴史に触れ、高校生は多くの刺激を受けた。



福岡空港出発前



バンコク都学生によるお出迎えの様子



ワット・ブラシーサンペット



ワット・ブラシーサンペット



アユタヤエレファントパレス



ワット・ブラシーサンペット

歓迎会の様子



ワット・チャイワッタナラーム



前半プログラム 於 タイ王国バンコク都



中間発表の様子(グループA)



中間発表の様子(グループB)



中間発表の様子(グループC)



中間発表の様子(グループD)



中間発表の様子(グループE)



クルージング



バンコク都議会表敬の様子



サオチンチャー



バンコク都表敬の様子



ワットスタット



送別会の様子



エメラルド寺院(ワットブラケート)

後半プログラム 於 福岡県

日程表(5泊6日)

日程		内容
3/21	木	バンコク都訪問団到着(TG648)
		太宰府天満宮視察
		昼食
		九州国立博物館視察
		歓迎会
3/22	金	ホテル出発
		ごみ処理施設視察(宮ノ陣クリーンセンター)
		昼食
		福岡県議会 表敬訪問
		福岡県 表敬訪問
		夕食
3/23	土	ホテル出発
		アイスブレイク・SDGsに関する講義
		発表準備
		昼食
		発表準備
		最終発表会
		日本文化体験(書道・浴衣)
夕食		
3/24	日	ホテル出発
		いのちの旅博物館視察
		昼食
		小倉城視察・小倉城日本庭園にて抹茶体験
		夕食
3/25	月	ホテル出発
		福岡市内視察(福岡タワー・福岡PayPayドーム)
		昼食
		グループ毎に福岡市内観光
		送別会
3/26	火	ホテル出発
		バンコク訪問団帰国(TG649)・お見送り

後半プログラム 於 福岡県

前半プログラムで親睦を深めたバンコク都の高校生を福岡にてお出迎え。ごみ処理施設の視察を通じてSDGsの理解を深め、ディスカッションの集大成として最終発表会に臨んだ。期間中には、歴史的資源の視察や日本文化体験も行った。

令和6年3月21日(木)～26日(火) 於 福岡県内(太宰府市、北九州市、福岡市ほか)

概要

バンコクの高校生10名が福岡県を来訪。後半プログラムでは、事前研修と前半プログラムでディスカッションを重ねてきた内容をさらにブラッシュアップし、集大成として、グループ毎に成果を演劇などを交えて発表した。また期間中は、福岡県・福岡県議会を表敬訪問し、SDGsのテーマの一つである「ごみ問題」に関する宮ノ陣クリーンセンター、太宰府天満宮、九州国立博物館、小倉城、いのちのたび博物館を視察した他、書道や抹茶体験をするなど日本文化体験も交えて互いに親睦を深めた。



太宰府天満宮



太宰府天満宮



太宰府天満宮



九州国立博物館



九州国立博物館



歓迎会



宮ノ陣クリーンセンター視察の様子



宮ノ陣クリーンセンター



宮ノ陣クリーンセンター視察の様子



福岡県議会 表敬訪問



福岡県 表敬訪問

後半プログラム 於 福岡県



最終発表会に向けた準備の様子



最終発表会



書道体験



浴衣体験



いのちのたび博物館



小倉城



小倉城日本庭園にて抹茶体験



福岡PayPayドーム

福岡タワー



送別会



参加者 報告書



天竺 李胡

福岡中央高等学校



【前半プログラム 報告書】

タイ王国バンコク都との高校生交流事業を通して私たちのグループは学校におけるゴミ問題について、議論を重ね解決策を考えることになりました。バンコク派遣を通じて私はSDGsについて議論を重ねる中で発見したタイと日本の学校のゴミ問題に対する取り組みの違いを実感しました。タイの学生とディスカッションをしていく中で、日本では可燃ゴミと資源ゴミの分別ができるようにゴミ箱が二つつ各教室に設置されるなどの対応が成されているのに対して、タイではゴミ箱にゴミを捨てるという行為自体ができていないこともあるそうです。さらにタイでは学校に清掃員がいて、その方々が学校で生徒の出したゴミを片付けるという現実があると知りました。ゴミ問題についてディスカッションを重ねる上でそれぞれの国での取り組み方に大きな違いがあったため、意見を合わせることは難しかったですが、それぞれの立場で解決策を考えたり、日本の学校での取り組みをタイの学校にも取り入れるという案を出したりして、それぞれの最善の解決策を見出す大きなヒントを得ることができました。

また私はタイの学生とお互いに、国や学校での文化や歴史について英語で6日間語り合うことで今までにないほどの英語力の向上を感じました。他国の学生と英語という一つの言語を通じて、文化を共有し合うなどのコミュニケーションをとることの楽しさを改めて実感できたように思います。

そして、タイを訪れて、タイの方々からタイについて学び、タイの良さに多く触れていく中で何よりもタイの人々の優しさが心に沁みました。多くの素敵なおもてなしをしていただいたので、3月にタイの方々

福岡を訪れた際は日本のおもてなしの心を存分に活かして、最大限で最高のおもてなしをしたいです。また、学校におけるゴミ問題のより良い解決策を見出すため、さらに議論を重ね、SDGsの実現に向かう一歩を踏み出せるようグループ活動に励みたいと思います。

【後半プログラム 報告書】

まず今回の福岡県受け入れに関して、バンコク研修に続いてグループで最終発表をするにあたって、日本のゴミ処理施設を見学することは私たち交流団にとって大きな経験となりました。タイの人々はもともと日本に対して綺麗や清潔というイメージがあり、街並みを見るたびに「日本ってやっぱり綺麗だね」とつぶやくタイの学生の姿が印象的だったこともあり、日本のゴミ処理の仕組みについて詳しく説明をいただいたり、ゴミ処理の過程に関する分別の大切さを目で見えて実感してすることができ、嬉しく感じました。

環境問題についてだけでなく、書道や浴衣の体験を通して、現代だけでなく昔からの伝統文化についても知っていただくことができた上にタイの学生の方々が感銘を受けられていたことが日本人である私たちからしてもすごく喜ばしかったです。

バンコクでの研修、福岡での研修は2週間弱とすごく短い期間ではありましたが、私たち交流団は何にも変えられないほどの友情を手に入れることができました。異国の地での英語での交流は慣れていないことばかりで不安なことも最初はありましたが、そんな中でもコミュニケーションをとることで他国の学生であって何事も違わない大切な絆を築くことができることを知りました。文化や言葉の違いなどは関係ないことを身に染みて感じることでできる期間になったと思います。交流団の帰国後から1週間以上経っても写真や動画を見返したくなり、思い出すと寂しくて連絡を取りたくなり、もう一度だけでもいいからあの20人で会う機会がほしいと心から願うほどの経験は私にとって今回の交流事業は人生で1番と言っていいほど忘れたくない大切な思い出になりました。今後は今回の体験をきっかけに、より深い国際交流事業に参加し自分の英語力を高めるとともに外国の方との交流を深めて国境を超えた友情を築いていきたいです。

伊藤 光央

上智福岡高等学校



【前半プログラム 報告書】

私は今回のバンコク派遣を通して、印象的だったことが3つあります。

1つ目は、タイの貧富の差です。今回のプログラムのSDGsのディスカッションで日本のホームレス問題について話し合いました。このディスカッションの際に、日本ではほとんどの人が字を読めるし、また字を書けるけれど、タイではまだまだ貧富の差があり、字を読めない、また字を書けない人もいたり知り驚きました。また、タイの町中を観光した際に、地面で宝くじのようなものを売っている人がいたり、物乞いのようなことをしている貧富層の方が印象的でした。

2つ目は、タイの高校生の英語力の高さです。私は、SDGsのディスカッションやタイの高校生と約1週間タイでお話するときに、英語を使いました。タイの高校生は英語が流暢で圧倒されました。一方で、私は英語が聞き取れないことや、自分の英語がなかなかうまく伝わらないことがあり、落ち込みました。そのため、3月にはせめて相手の英語が聞き取れるように、英語を聞く勉強を頑張りたいです。そして、タイの人との会話を楽しみたいです。

3つ目は、タイには明るい人が多いということです。タイの高校生は積極的に話しかけてくれたり、日本のことをたくさん聞いてきてくれて、嬉しかったし、とても楽しかったです。また、タイの高校生から簡単なタイ語やタイの食べ物についてたくさん学ぶことができ、いい経験になりました。しかし、私はあまり社交的な性格ではない

ため、タイの人の明るさに驚き、この12月のプログラムが進んでいくと同時に自分の壁を作ってしまうことが多少ありました。この反省を活かして、3月にタイの高校生を福岡にお迎えするときには、心機一転気持ちを切り替えて、自分の壁を作らず、自分から積極的に関わっていきたいです。そして、福岡の魅力を伝えていきたいです。

【後半プログラム 報告書】

私は12月のタイでのプログラムの際にタイの子たちとあまり積極的にコミュニケーションが取れなかった後悔と反省の気持ちがあったため、3月の日本のプログラムでは自分から積極的にコミュニケーションを取りに行き、話す際は笑顔を意識するという目標にしました。個人的にはですが、タイより日本でのほうがタイの子たちとコミュニケーションを取ることができました。タイの子たちとお別れをする際にはメッセージやギフトをいただき感謝し、このプログラムに参加することができてよかったし、とても良い経験になりました。この経験を機に、以前よりもより英語を流暢に話せるようになりたいと思いましたが、海外の人ともっと交流してみたいと思うようになりました。

このプログラムでこんなにも海外の方と交流する機会があったからこそ、日本人にはない海外の人の素敵な特徴を見つけることができました。日本人はあまり自分の意見や気持ち、したいことを言わないという人が多いと私は思うのですが、タイの子たちは自分のしたいことやしたくないことがはっきりしていて、とても自由でした。大変だったけれど、それ以上に面白かったし楽しかったです。特に記憶に残っているのが、最終日の自由行動でキャナルシティ博多に行ったときです。キャナルシティ博多では色々なことがありすぎてうまく文章にできないのですが、タイの子の自由さに腹がよじれるほど笑いました。私にとってはこのプログラムの中でキャナルシティ博多が一番の思い出です。

最後に、私はタイや日本の子、そしてこのプログラムに関わってくれた人に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも様々なことに挑戦し続けたいです。ありがとうございました。

江口 天翔

東福岡高等学校



【前半プログラム 報告書】

私は今回のプログラムを通じて、SDGsの議論を国、地域を超えて行うことの重要性を再認識しました。私たちのチームは、ゴミの管理について議論をしたのですが、タイの学生達から自分には思いつかないような画期的なアイデアをいくつも聞くことが出来ました。後々なぜ良いアイデアを考えつくのかを尋ねるとそれはタイのある地域で、ゴミ処理や治安などの事情から、地域の人々が創意工夫をしてきた事が当たり前のものであることを聞きました。

これまで私が見てきたSDGsの議論は、発展した国、地域がどう先導していくのか、という論調ばかりです。しかし、今回のプログラムでは、むしろ課題のある地域からも学び知ることがあったのです。このことから、SDGsの議論は国、地域を越えることで新しい気づきを得られること、そしてその重要性を実感することができると思います。特に日本では、SDGsについて様々なフォーラムが行われていても、日本人だけで話し合うことが多く、そこから改めべきだと思えます。

また、バンコクに行くまでは、英語ができなければ会話や議論ができず、実りが無いと思っていました。しかし、実際は聞きたい、知りたいことについてだけでも円滑に話すことができ、そこでコミュニケーションで大事なことは、言語だけではなく、相手のことを知りたい、話したいという熱い思いなのだ気づきました。海外に出向き、人々と対話する際には、このことを忘れないようにしたいです。

3月のプログラムでは、SDGsについてより多くを学び、バンコク都の魅力を教えてもらったお返しに、最高のおもてなしをしたいと思えます。

【後半プログラム 報告書】

私は、後半の福岡県への受け入れの際、国際間におけるコミュニケーションについて大きく学びを得ました。

タイの学生との交流は基本英語で行われましたので不安もありました。福岡県の各所を視察した際、質問を受け、答えは考え付いても、それを上手に細かく英語で表現できないことが何度ありました。県や日本の魅力について、伝えられずにもどかしさを感じました。その時、完璧な英語を話さなくても、魅力は伝えられるのではないかと思い、質問への答え、自分の考えを、まずは言語化してみるように心がけました。すると、相手も良く理解を示してくれ、より深い会話やコミュニケーションを取ることができました。そのことから、コミュニケーションにおいて大事なことは、必ずしも言語だけではなく、どうにか伝えたいという気持ちと、柔軟な対応が肝要でそれらを織り交ぜることで、より忌憚のない関係になるのだと考えます。

また、本事業はSDGsについての議論など、専門的な内容であったため、円滑な議論のために流暢で高い英語力が求められる場面もありました。そういった際にも、ひとまず自分の意見を表現することで、臆していた意見が発信できるようになりました。

この体験は、他国間との活動のみならず、日常的な議論でも積極的に参加し、議論の展開を実現する人物像に繋がると考えます。今後、ますますグローバル化が進み、国境を越えた話し合いが求められることが予想されます。英語の必要性はもちろんのこと、どの人種や国家間にあってもdiscussionの中では皆対等であり、常に相手を尊重し、向かい合う姿勢や努力が、諸問題への解決につながるかと学びを得ました。将来この経験をもちに世界がより良いものになるよう社会貢献していけたらと思います。今回はこの様な素晴らしい機会をいただき誠にありがとうございました。

大石 優

久留米高等学校



【前半プログラム 報告書】

私は今回の研修では、タイの方々の人柄が最も印象に残りました。タイの学生たちとのディスカッションでは、話し合いに対する積極的な姿勢はもちろん、プレゼンテーション発表の際はどうかしら面白みのあるものになるのか、など工夫する態度が素晴らしいと思えました。また、タイの学生たちだけでなく、街中を歩いたりお店を回っていたりする時に、一般のタイの方が笑顔で接してくださるのがとても印象的でした。

文化の違いの面においては、食べ残しが最も印象的でした。今回の研修では食事の際は自分たちで好きな量だけとる、というのが一貫していましたが、タイの人たちがよそったご飯の量の多くを残しているところを見かける場面が多く驚きました。タイの学生の1人に「日本では残すのはあまり良くないとされているがタイではどうなのか」というようなことを聞いたところ、「タイでは残すのも残さないのもその人の自由」という答えが返ってきました。日本では食べきれない分だけをとるのが当たり前、という風潮がありますが、国の違いによってここまで違いがあるのか、と衝撃を受けました。

またホテル滞在や観光時の会話の中で、一つ一つの食べものについて詳しく説明してくれたり、都市伝説について話してくれたりするのを見て、自分の国への理解をしっかりと持っておくことはとても大事だと思えました。次に私たちがタイの学生たちを迎える際は、日本の食文化などももちろん、歴史などを英語で教えられるように準備しておきたいです。

最後にタイでの研修を通して、英語で自分の意見や気持ちを伝えることの難しさを知ると同時に、コミュニケーションがうまくいった時の達成感を味わえたりしたことは、もっと世界に出たいというモチベーションになりました。また、文化の違いを直に感じたことは、異なる価値観を理解しようと思うきっかけになったし、よりよい社会にしていける

で大事なことだと思いました。タイの学生たちと常に行動を共にし、互いについて理解を深める、本当に価値のある研修だったと思います。

【後半プログラム 報告書】

まず英語で会話することについては、英語は同じ第二言語であるにも関わらずタイの学生たちの方がずっと流暢で自分との差を感じました。これからの将来で世界の人々と関わっていく中で、もっと沢山の人とコミュニケーションを取るためにもっと話せるようになりたい、とモチベーションになりました。

文化については、食文化、宗教文化の二つがあります。一つ目の食文化については、タイに行った際に香辛料が多く酸っぱかったり辛かったりすることに驚きましたが、逆にタイの学生が日本に来て日本食を食べた際に塩辛い、という意見を持っていて更に驚きました。お互いに日々慣れ親しんだ味も新しい発見を見つけ合うことができるのだ、と感じました。次に宗教文化では、タイの王宮に行った際に日本との違いを感じることが多かったです。タイの寺院の中では、参拝している大人の方より高い位置を歩いたりしてはいけないので屈んで歩いたり、より目上の人や神様に対する敬意を払っているなど思いました。ただ知識として教えられたものではなく、なぜそれをしなければならぬのか、なぜそれをしてはいけないのか、など実際に現地でも教えてもらうことによりその文化や背景について知ろう、と言う気持ちが起こることに気づくことができました。

最後にこの交流体験を通して、国境や言語に関わらず、お互いについて知ろうとすることがどれだけ大切かを知ることができました。新しい環境の中で、まだ自分の知らない相手やその国のことについて知ろうとすることは、その人やその場所をもっと好きになっていく手段だと気づきました。「本当に毎回するの？」と聞かれた、いただきます、ごちそうさまでした、の習慣も、その経緯を説明するとみんな揃って挨拶するようになったように、これら色々な文化の違いを知ってもっと色々な国のことを知っていきたいと思えます。

最後にこのプログラムは、これから沢山の好きを増やしていくためのツールである英語力を向上させ、色々な知識をつけていきたいというやる気につながりました。このような事業に参加できて本当に良かったです。長い間ありがとうございました。

梶原 毬可

筑陽学園高等学校



【前半プログラム 報告書】

12月のバンコク派遣を通して、実際にバンコクを訪れ現地の高校生と交流することで得られる気付きや成長があったと思います。

SDGsについてのディスカッションでは、「学校におけるジェンダー問題」をテーマにグループで意見を交えながら解決に向けての取り組みを考えました。学校のなかでの課題と、私たちにっては身近なテーマだったのですが、タイは日本よりもジェンダーに対して寛容な国であり、多様性を認める制度があることなどから価値観の違いを感じる場面が多くありました。だからこそ日本での私たちの価値観を伝える必要もあり、自国の事を知っておくことの大切さを痛感したりと難しく感じることもありましたがお互いの文化や価値観を知ることが課題解決への1歩にもなると身をもって感じる事が出来ました。

そして今回のプログラムで驚いたことは、日本人も含め参加者全員の英語力が高かったです。特にディスカッションでは、自分の知識や考えを伝えたくても上手く英語が出てこず何度も悔しさを感じました。またディスカッションの時間以外でもタイの高校生との交流のチャンスは多くあり、積極的に交流することを心がけていましたが振り返ってみてまだまだ得られる知識や交流はあったのではと感じることが多く、活動に対する積極性の大切さも改めて感じました。

3月に行われるプログラムでは、タイでの貴重な体験や素直な時間への感謝を忘れずタイの高校生のお迎えしたいです。そして、より有意義な時間になるよう今回の学びと反省を活かして成長できるよう臨みたいと思います。

【後半プログラム 報告書】

3月にバンコクの高校生の皆さんを福岡県にお招きする形でこのプログラムの後半が行われました。最初は長いと思っていた活動も最後の方では、最終日が近づいてくるのがとても早く感じ、今もまだ名残惜しいです。

プログラム後半では、SDGsについてグループでプレゼンテーションを行いました。約3ヶ月間タイの高校生と準備してきたことを皆さんの前で発表出来たことが本当に嬉しいです。SDGsについては学校やテレビ番組などでも聞くことが何度もありましたが、実際に自分達が施設を見学したり深く掘り下げて考えることで、より身近に感じ、私たちに出来ることについて考えやすくなったと感じました。

また、発表を通じて、その時に考えるだけでなく問題意識を持ち続けることや実際に行動に移すことが大切なのだと気付くことが出来ました。

他にも、茶道や着物、習字の体験、小倉城の見学を通して日本文化交流も行いました。日本の文化を英語で説明することは難しかったですが、自分の知らない文化を知ることと同じぐらい自分の国の文化を知って貰えることはとても嬉しく感じ、異文化理解に今まで以上に興味を持ちました。

また、プログラム期間中はタイの皆さんの優しさに何度も助けられ、感動しました。事ある毎に声をかけてくれたり笑わせてくれたりと緊張がだんだん楽しみに変わったのがとても印象深いです。このような温かさがSDGsのような世界で一体となって取り組む活動や国際交流の要になるのだと身をもって感じました。

私は国際的に活動できる助産師を目指しており、このプログラムへの参加を希望しました。国際交流の興味深さや可能性、人々との繋がりや価値など、今回経験出来たことや学べたことを活かして将来に繋げたいです。

桑原 理沙

上智福岡高等学校



【前半プログラム 報告書】

今回のバンコク都への研修は私にとってとても実りあるものとなりました。

私にとってタイは近いようで遠いような存在でした。いくつか日本の違いが発見することができました。まずマナー面では他の人を指すときには指で指すのは良いことではないこと。日本でも人を指すときには手のひらを使います。修道僧さんのことを指で指してしまい、タイの学生に手のひらで指してねと教えてもらい、同じようなマナーなんだと気づくことができました。

次に食事の際、私たちは基本的に箸を使います。けれどタイの米はパラパラしているのでナイフを切るためだけに使うよりも米を掬って食べることができ、食べ物切る事ができるスプーンを使っており、効率的だと思いました。

タイの歴史についてアナタヤでタイ人学生が説明してくれました。タイではミャンマーとの戦争があり、仏像の頭は切り落とされてしまったため頭のない仏像が多いこと。などさまざまなことを教えてくれ、深い歴史を体感する事ができました。

最後にSDGsについて、タイではごみ収集の際にはごみの分別をせず、容器にまとめて入れてそれを回収することを学びました。実際にバスに乗っている際、木にかけてあるバケツにごみを入れられていてそれを回収する場面を見て、福岡とは違う収集方法に驚きました。

3月の福岡研修では私たちがおもてなしをしたいです。タイではタイの学生がずっと滞在してくれたおかげで心配事はなく安心して過ごす事ができました。私たち福岡の高校生は久留米などに住んでいる子もおり、タイの学生をタイでしてくれたようにサポートするためには少しでも長く一緒にいるために近くのホテルにでも宿泊できたら、

と思います。三月に向けて太宰府のことや桜のことなど歴史について学びたいと思います。福岡についてもより深く知る事ができるチャンスが得られたことにも感謝します。

【後半プログラム 報告書】

福岡での受け入れを通して、前回のバンコク都研修よりも深くお互いの文化を知ることができました。

まずSDGsの課題でもあるゴミの分別や収集において、タイと福岡での大きな違いがあることが前回を含めてより明確に知れました。私にとって宮ノ陣クリーンセンターなどのゴミ処理施設への訪問は初めてでした。普段出しているゴミの行方を目で見て理解することができました。ペットボトルとその他の物の仕分けをする部門では分別をしなければ仕分けに時間を要します。となるとよりゴミ処理に時間がかかります。また電池を燃えるゴミに入れてしまうとそれが原因でゴミが発火してしまうことがあります。その事実を聞き、自分の意識が変わりました。タイの方々にはゴミ処理場は汚いイメージがあるため、清潔であることに驚き、積み重ねられているダンボールなどを見て「あそこのゴミもリサイクルの対象なのか」などたくさん質問をもらって福岡とタイのゴミの分別への取り組みが大きく異なることを実感しました。

次に福岡の街を通してお互いの文化を深く知ることができました。今回私達が宿泊したホテルの近くには中洲の夜の街がありました。彼らはその看板を見つけ、どういお店なのかを質問してきました。今の現状を伝えたところ、「タイにも同じような夜の街があり、日本でもそんな店があるなんて」と。お互い決して誇れるものではなく、文化とは言い難いですが、お互いの国でそのようなお店が続いていることへの考え方を共有することができました。

このようにお互いの文化を共有するようになるには語学力以前に自分たちの地域のことを深く知る必要があると後悔することが何度もありました。異なった文化の方々や共通言語である英語を使って交流するという日本ではなかなかできない貴重な経験をしながら勉学に励みたいと思います。

新家 薫

北九州工業高等専門学校



【前半プログラム 報告書】

私は今回のバンコク派遣を通して以前に比べて積極的になれたと思います。そしてもっと英語を頑張ろうと思いました。バンコクで特に印象的だったのはSDGsに関するプレゼンテーションを行う為の話し合い中で、バンコクの学生が言っている「そのプラスチックゴミによって被害を受けている」という言葉です。日本では、ゴミはプラスチックゴミに限らずゴミ箱に必ず捨てますし、自分達がゴミ捨てたごみによって怪我などをしても自業自得になります。しかしバンコクに学生は自業自得な事を被害と言っていました。価値観の違いにびっくりしました。また、自業自得なのか被害なのかについての話し合いの時に英語力が足りず自分の言いたい事を伝えられなくて悔しかったです。そして、バンコクの学生の子はみんなすごく積極的にたくさん話しかけてくれたり意見出してくれたり嬉しかったです。同じくらい話しかかったです。

また、バンコク派遣では毎食食べきれない量のタイ料理を出してくれてどれも美味しかったです。最高でした。バンコクの学生が日本に来てくれた時には同じように食べきれないくらいの量の美味しい日本食を出してあげたいです。また、タイのコンビニに行った時に日本の豚丼とおにぎりがあったのでバンコクの学生が来たら日本のコンビニに連れて行きたいです。

そして日本のコンビニはスイーツ、おにぎり、お弁当系、お菓子全部の品揃えがいいのでコンビニ探検をしたいです。また、次回は日本なので私がバンコクの学生をリードできるように英語の勉強などしたいです。

【後半プログラム 報告書】

私が今回のタイ学生との交流で一番感じたことはもっと積極的になるべきだということです。それが特に感じられたのはプレゼンテーション準備の時です。タイ学生はプレゼンテーションの内容が伝わるよりプレゼンテーションの聞き手がいかに楽しむかを重視していました。これは今まで私が行ってきたプレゼンテーションの方法や重視していた物とは違っていました。そして少しの違和感を感じました。しかし、その違和感をタイ学生本人たちに伝える事はできませんでした。そしてそのままプレゼンテーションは進んでいきました。また、タイ学生はスライド、原稿の作成には非協力的でした。日本人学生が作ったスライド、原稿に最後の最後に修正点を言うだけで作成は手伝ってくれませんでした。しかし、プレゼンテーションを行う際はエンターテインメントなタイ学生が目立つので彼らに自分達の努力、スライド、原稿作成の手柄がとられたようで悔しかったです。しっかり自分が評価されるためには、もっと積極的になって自分の意見を言うべきだと思います。そして、自分が感じた違和感を相手に伝えるべきだと思います。

その他、日本文化体験に関しては、浴衣の着付けが印象に残りました。今までは帯のリボンがもう作ってあって差すタイプの浴衣しか着たことがなかったのでしっかり自力で結ぶのは新鮮でした。今回の着付け体験で帯の結び方を学べてよかったです。タイ学生も浴衣が着られてすごくうれしそうでした。タイと日本の文化は全然違って戸惑う部分も多かったですが、学ぶ点もたくさんあってこの事業に参加できてよかったです。

福元 日菜

九州産業大学付属九州高等学校



【前半プログラム 報告書】

約一週間のバンコク派遣を通して感じたこと、考えたことはいくつかありますが、ディスカッションやプレゼンテーション活動中と、その他の時間に分けて振り返りたいと思います。

まず、ディスカッション中だけに限りませんが、全体的に、日本の高校生よりタイの高校生の方が英語をすらすらと使いこなしているように感じました。また、同じ日本の高校生でも、積極的に英語で話そうとしている子やディスカッション中の話し合いで難なく受け答えをしている子がいて驚きました。今回のバンコク派遣ではタイの高校生全員と親密に話すことはできなかったのですが、私ももっと積極的にコミュニケーションを取れるように頑張ろうと思いました。ディスカッション中では、SDGsに関する少し専門性のある単語の意味がわからず調べたことがあったので、次の活動までに予め知っておくべきだと感じました。

中間発表の時は、日本だとただ読むだけとかが多くて真面目なイメージだけど、タイの高校生たちは見てる人を楽しませよう、印象に残ってもらおうというところまで考えて目を引くプレゼンを作っていて、自分もついていけるだけでなく、見習って先導できるようになりたいなと思いました。

ディスカッションなど以外の時間では、寺院でのルールが厳しいこと、それをみんなが当たり前を知っていることに宗教を感じて驚きました。また、ダンスタイムがあることは日本でも見たことがなくて、みんな総じてノリノリで楽しんでいるのが目新しく面白かったです。気候の面では、ヌンさんが季節を「hot, very hot, super hot」と分けて

いたほど気温が高くてとても大変でした。

このバンコク派遣を通して、宗教や気候の違いだけでなく、現地の高校生との活動の中でもたくさん気づきがありました。この反省を活かして、三月の活動ではより良いプレゼンテーションをつくりたいと思います。

【後半プログラム 報告書】

プログラム全体を通して一番痛感したのは、自分の英語が未熟なことでした。タイや日本の他の高校生よりも持っている語彙が少なかったり簡単な英語に言い換えられなかったりすることで、タイの子たちとの会話がうまく続かないことが多かったことが残念です。

プログラム全体を通して英語力は上がらなかったけど、英語で会話することや言い間違えてしまうことに対する不安はだいぶ無くなってきたと思います。

何気ない話や相槌は難しくても、好きなアニメや小説の話をするときは距離を縮めて話すことができてよかったなと思います。タイの子たちがタイに帰ってしまったあと「おすすめしてくれた本読んだよ!」「どうだった?」「おもしろいけどめっちゃ怖かった!」とLINEで雑談することができて、これからも交流が続けばいいなと思っています。

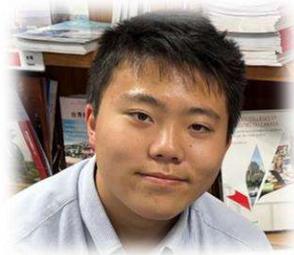
交流面では、自分の生活圏内なのに行ったことのない場所が多く、タイの子たちと同じテンションではしゃぐことができたと思います。小倉城では宮本武蔵のコスプレをしているスタッフの方とお話したのですが、そのとき宮本武蔵さんに尋ねた誰がタイ人でしょうかゲームで、私がタイ人だと勘違いされてとてもおもしろかったです。

また、シャアという子が日本の街並みや道路が好きらしく、バスに乗っている間よく車窓から写真をとっていて、自分にとっては当たり前風景でも、普段住んでいる国が違うと見えるものが違うのかなと思いました。

最後に、SDGsに関して振り返ろうと思います。このプログラムではいくつかのゴールに集中して調べることが多かったのですが、全てのSDGsについて詳しくなるというよりはいくつかのSDGsに関する国際問題や解決方法を考えていくことができていました。SDGsのことをより知れたというだけでなく、どのような思いで各ゴールやターゲットが作られてきたのだからということも考えるきっかけになったなと思っています。

益田 拓実

三瀬高等学校



【前半プログラム 報告書】

私が所属しているCグループでは、ホームレスについて考えていました。バンコクに行く前に情報を軽く集めたのですが、やはりマイナス部分はあるにせよ、タイは僕が思っていた以上に「なんだこれは…」と思う部分が所々ありました。全ては日本と比べてから得られた結果です。教育を自由に受けることができなかつたり、文字が読めなかつたり、お金が無く観光客にお金をねだつたりと。視察に行った際に道に座ってる人達の姿が忘れられることができません。

SDGs10の目標に、『人や国の不平等をなくそう』があります。不平等を無くすのはとても大事だと思いますが、事後解決ではなく、問題が起こる前にトリガーとなる物を掻っ切らないと始まらないと私は思いました。

タイの人達はとても英語が流暢でびっくりしました。僕達はカタコトでしか喋れることができなかったのに、みなさんはタイ語に付随して英語も難なく話せていたので、日本とは違う英語の教育がされているのではないかと考えました。

交流を通して思ったことが、タイの方々はずごく明るくて元気があって優しくて日本人とは違うなあとしみじみ思いました。すごく笑顔で素敵でした。

寺院訪問では他国の文化を感じることができてとても嬉しかったです。3ヶ月後にタイの人達をもてなすことができるように頑張っていきたいです。

【後半プログラム 報告書】

ホテルに着いた時に、「SDGsを考慮したホテル」と教えられて、「そんなものあるんだ！」とびっくりしました。その他にも宮ノ陣クリーンセンターでのゴミ処理の方法にもとても関心を持ちました。タイに行った時は、タイの学生について行けばなんとか色んなものが見えて、買えて安心してたのですが、此度は日本に来たので、リードして連れて行くのに困りました。滅多に来ない博多…英語で話すので大変なのにタイと何ら変わらないようなあまり行かない場所なのでとても困りました。買いたいものがあるとと言われて一緒に探しましたが結局見つけることが出来なかった事に後悔しています。自分の英語力がまだまだだと思いながら交流事業が終わってしまいました。タイの人達は毎日夜中にドン・キホーテに行って買い物してることに驚き、日本人生徒で「逆だったら怖くて行けないよね…」って話しながら、日本がいかに信用されて安全な国なのかをタイの学生をみてよくわかりました。日本が好きなのはわかっているのですが、タイの人たちのタフさと疲れを知らないその精神、様々なことに目を向け、僕達でも答えられないようなことも質問してきたりして、すごくびっくりしました。僕がタイに行った時は、失礼ですが僕には料理が合わず、そしてこの交流が終わるまで家に絶対帰れないという絶望感とタイの治安の問題があつて怖かつたんです。日本に来たら来たで疲れることも多くあまり全力で楽しむことが出来ませんでした。私はまだ将来の夢が確定しておらず、受験生になりますが、できることなら次もまた参加したいと思っています。それまでに英語力をつけて、人との交流を深めて行きたいです。次の交流でまたご縁がありましたらよろしく願っています。今回の交流事業はとて勉強になり、思い出になり、日本とタイ、人と人、福岡県とバンコクを結ぶいい体験になりました。本当にありがとうございました。できることなら福岡県交流センターで働きたいです。

渡邊 友莉香

修館館高校



【前半プログラム 報告書】

私はこの前半プログラムを通してよりSDGsについての理解を深めることができました。バンコク都の高校生とのディスカッションやプレゼンテーション作りによって身近なSDGsの問題に気づくことができ、解決策と一緒に考えることができました。やっぱりグループのメンバーと一緒に考えることで自分1人では思いつかないようなアイデアがたくさん出てきて、みんなで協力して考えることの大切さに気づけました。外国の同年代の子たちとのディスカッションは初めての経験で、たくさん刺激を受けることができました。

また、日本以外の外国の友達とたくさんコミュニケーションを取ることでコミュニケーション能力を身につけることもできました。初めは、お互いに違う第一言語なので会話することが難しいと思っていました。でも、共通の言語である英語でコミュニケーションをとることができ、英語の重要さを改めて知りました。もっと英語を勉強してもっとたくさんの人とコミュニケーションをとれるようになりたいと思います。それだけでなく、バンコク都の高校生が日本語で話しかけてくれたりしてうれしかったです。だから私は3月までにタイ語も勉強して、タイ語でもバンコク都の高校生と話せるようになりたいです。そして何よりも、言語の壁を気にせずによく人と積極的に交流しようとする姿勢がコミュニケーションをとる上で1番大事だと思いました。

タイの伝統衣装を着ることができたり、タイの伝統的な踊りや

歴史的な建築物を見ることができたりして日本とは全然違うタイの文化について知ることができました。実際に自分の目で見ることで、改めて世界には様々な文化があることに気づきました。3月の後半プログラムには、課題をもう一度見直して、もっと良いプレゼンテーションができるようにしたいです。バンコク都の高校生たちをちゃんと迎えることができるように準備したいです。

【後半プログラム 報告書】

私は後半の日本受け入れを通して日本の文化について改めて理解を深めることができました。バンコク都の高校生に日本の文化を紹介したり、質問に答えたり、普段の生活では中々経験することがない浴衣や茶道を体験したりすることで知らなかった日本の文化も知ることができました。

最終発表会では今まで話し合ってきた内容のまとめを楽しく最後まで聞けるようにバンコク都の高校生と工夫して発表することができてとても良い経験になりました。これからの発表の参考にしていきたいです。最終発表では自分のグループとはまた違ったトピックの他のグループの発表を聞くことでよりSDGsの理解を深めることができました。

バンコク都の高校生は英語を話すことがすごく上手で改めて自分の英語力を見直すことができました。私たち日本人は話す時に躊躇うことが多かったけど、タイの高校生は積極的に英語を使っているすごいなと思いました。私もミスを気にしすぎずに自信を持って積極的に英語を話していきたいと思いました。

私はこのプログラム全体を通して、異文化の理解を深めることができました。実際に異文化を持つ人とコミュニケーションをとることで改めて世界には様々な文化や価値観、考え方があることを知りました。これからも積極的に異文化に触れ合い、受け入れて視野を広げたいです。固定概念にとらわれないような柔軟な思考ができるようにしたいです。また、お互いに母国語ではない英語でコミュニケーションをとることができ、改めて英語の重要さに気づくことができました。もっと英語力を伸ばして、より良いコミュニケーションがとれるようにしたいです。

令和5年度 タイ王国バンコク都との高校生交流事業 募集要項

1 目的

海外との交流に意欲的な高校生に、英語でのディスカッションや海外渡航の機会を与えることにより、国際感覚を持ち、将来的に英語でコミュニケーションができる人材を育成する。

2 主催

公益財団法人福岡県国際交流センター
(福岡県からの委託により、(公財)福岡県国際交流センターが実施)

3 プログラム内容

福岡県とタイ王国バンコク都を相互に訪問し、ワンヘルスやSDGsをもとにした高校生に身近な社会課題に関するテーマについて、チームごとに英語でグループディスカッションを行い、自分たちが取り組めることや課題解決策について発表する。

(1) 事前研修(場所 福岡市内、オンライン)

- ア 事前研修 1回目
日程 令和5年11月4日(土)
内容 福岡県とバンコク都の概要、ワンヘルスやSDGsに関する講義とグループワーク
- イ 事前研修 2回目
日程 令和5年11月25日(土)
内容 バンコク都高校生との顔合わせ、SDGsについての講義(オンライン)
- ウ 事前研修 3回目
日程 令和5年12月2日(土)
内容 テーマ決め、グループディスカッション(オンライン)

(2) 海外研修(派遣国 タイ王国バンコク都)

- 日程 令和5年12月23日(土)～28日(木)
- 内容 福岡県の高校生10名とバンコク都の高校生10名が一同に会し、SDGsをもとにした身近な社会課題に関するテーマについて、専門家による講義やフィールドワークなどを通じて英語でディスカッションを行い、課題解決策等を考え発表する。その他、バンコク都庁表敬等。

(3) 国内研修(場所 福岡市内)

- 日程 令和6年3月21日(木)～26日(火)
- 内容 バンコク都の高校生とともに研修の成果発表や日本文化体験などを通じて交流する。その他、福岡県庁表敬訪問等。
※報告書冊子を作成しますので、研修全日程終了後、報告書を提出して頂きます。

4 募集人員

10名

5 応募資格

次のすべてに該当する者とします。

- (1) 福岡県内の高等学校若しくはそれに準ずる学校に在籍している18歳以下の者。
- (2) ワンヘルスやSDGsに強い関心を持ち、協調性に富み、団体生活に適応でき、心身ともに健康で、タイの文化や生活、国際交流に関心のある者。
- (3) 一定の英文読解力を有し、英語によるコミュニケーションが可能であること。
- (4) 国内研修及び海外研修すべてのプログラムに参加できること。
- (5) 参加にあたって、保護者の同意が得られる者。

6 応募方法

以下、どちらかの方法で申請してください。

① 電子申請

下記のURL (Google form) より参加者申請書を送信してください。
<https://forms.gle/mCGnKBux11WqXYqj6>

② 電子メールまたは郵送による申請

下記の書類を、申込先へ電子メールにて送信するか、封筒に朱書きで「申請書在中」と記載の上、簡易書留にて郵送してください。

- <提出書類> (1) 様式1 参加申請書
- (2) 様式2 作文

7 募集締切

令和5年10月6日(金)午後5時まで
※上項の応募方法、いずれも期限「必着」とする。

8 選考・決定

- (1) 1次選考(書類選考)
提出書類に基づいて書類選考を行います。
結果は、令和5年10月13日(金)までに本人に電子メールで通知します。
- (2) 2次選考(面接)
1次選考の合格者に対し、面接を行います。
面接予定日 令和5年10月21日(土)
- (3) 決定
令和5年10月下旬に本人に電子メールで通知します。

9 経費、損害等の負担

- (1) 参加者負担金 100,000円
※参加者負担金に含まれるものは、海外研修に係る費用のうち、渡航費(往復航空券等)、宿泊費、食費、車両借上げ料
※為替や燃料サーチャージ等状況により負担金が増額になる可能性があります。
- (2) 参加者負担金のほか、次の費用(一例)は参加者の自己負担となります。
 - ① 国内研修にかかる交通費
 - ② パスポート取得費用
 - ③ 海外旅行保険料(当財団で加入する保険を上回る補償を希望する場合)
 - ④ 海外研修時の集合・解散場所までの交通費
 - ⑤ 個人的に必要な経費(電話代等通信費・お土産代など)
 - ⑥ 海外研修中に新型コロナウイルス等により自主隔離等が必要になった場合の宿泊費等(海外旅行保険で補償される場合を除く)
 - ⑦ 自然災害や悪天候等航空会社や主催者の手配に起因しない事由によりプログラム内容が変更になる場合の追加費用(航空機の欠航・遅延、宿泊費等)
- (3) 自己都合によるキャンセル
参加者決定後は、原則として参加を辞退することはできません。
参加者が自己都合により参加を辞退した場合において生じるキャンセル料等については、負担金納入の有無にかかわらず参加者が全額を負担し、主催者は負担しないものとします。
- (4) 研修中の事故等
研修中の災害、病気、事故、個人の不注意等によって生じる参加者の損害等については、主催者は責任を負いません。なお、参加者は、主催者の負担により海外旅行保険に加入します。

10 参加者資格の取消し

参加者として不適切と認められる者(提出書類に偽りがあったとき、事前研修の無断欠席、事務局からの連絡に誠実に対応しない等)については、参加者資格を取り消します。なお、主催者は、すでに主催者が負担した経費の一部又は全部について、資格を取り消された者から返還させることができるものとします。

11 プログラムの変更、中止

- (1) プログラムの内容や日程は変更となる場合があります。
- (2) 自然災害や新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大、その他不測の事態により、国内・海外研修の安全かつ円滑な実施が困難となった場合、又は困難となる可能性が大きい場合、プログラムは中止もしくは内容の変更、一部オンラインでの実施等に対応するものとします。
【海外研修出発前に中止する場合】納入済みの負担金は全額返金します。
【海外研修中に中断する場合】負担金は返金しません。行程変更等に伴い、追加費用を負担していただく場合があります。

12 問合せ・申込み先

公益財団法人福岡県国際交流センター 企画交流部 担当 松本 王住所 〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1アクロス福岡西館8階
電話 092-725-9204 FAX 092-725-9205
電子メール exchange@kokusaihiroba.or.jp
時間 平日 午前8時30分～午後5時45分

タイ王国バンコク都との 高校生交流事業 参加者募集

福岡県とタイ王国バンコク都を相互に訪問し、ワンヘルスやSDGsをもとにした高校生に身近な社会課題に関するテーマについて、専門家による講義やフィールドワークなどを通じてチームごとに英語でグループディスカッションを行い、自分たちが取り組めることや課題解決策について発表するプログラムです。

実施場所

バンコク都・福岡県

応募締切

令和5年10月6日(金) 17時まで

募集人数

10名

対象者

- ◆福岡県内高等学校もしくはそれに準ずる学校に属する者。(18歳以下)
- ◆一定の英文読解力を有し、英語によるコミュニケーションが可能であること。
- ◆国内研修及び海外研修全てのプログラムに参加できること。

参加費用

10万円

※その他条件はHPをご確認下さい。

※参加者負担金の他、パスポート取得費用・事前研修等に係る交通費などは参加者の自己負担となります。募集要項を必ずご確認ください。

事前研修

日程：11月4日、25日、12月2日
場所：福岡市内、オンライン

海外研修

日程：12月23日～12月28日
場所：バンコク都

国内研修

日程：令和6年3月21日～3月26日
場所：福岡県

選考日程

- 10月6日(金) 応募締切 ※17時まで
- 10月13日(金) 1次選考(書類選考)結果通知
- 10月21日(土) 2次選考(面接)
- 10月下旬 参加者決定通知

※本人には電子メールで連絡します。

募集要項・応募方法

右記のQRコードより専用サイトにアクセスしてください。



昨年の様子



問合せ申込先

公益財団法人 福岡県国際交流センター
福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡西館8階
受付時間 月～金(土日祝を除く)
8時30分～17時45分
Tel:092-725-9204
E-mail: exchange@kokusaihiroba.or.jp
企画交流部 松本、王



